

(仮称) 南こども園創設に係る保護者説明会 要約議事録

- 1 開催日時 平成25年7月4日(木) 17:00~18:20
- 2 開催場所 みなみ保育園リズム室
- 3 参加者 38名
- 4 回答者 (子ども子育て支援懇話会座長) 吉岡真知子東大阪大学副学長兼こども学部教授  
(みなみ保育園) 高橋園長  
(南幼稚園) 平田園長  
(事務局) 池田こども健康部長、吉川こども課長、奥田こども課課長補佐、  
水野こども課課長補佐  
峯島教育総務部長、真銅教育総務課長、藤本教育総務課課長補佐、  
浅井教育指導課課長補佐
- 5 開会あいさつ(池田部長)
- 6 吉岡教授による「これからのこども園について」

こども園を生駒市に創るにあたって、子どもたちの健やかな育ちというものを軸において、どのような園づくりをしていけば良いのかというような事をお話してきた。

日本の保育の状況を見ると、国では、厚生労働省と文部科学省という管轄が二元になっている。

これは、そもそも、幼稚園のできた歴史と保育園ができた歴史、出発が違ったものなので、こういった二元のまま日本はきている。

保育園においては、日々お母さん方の就労を保障するという意味では、年々保育が長時間になってきている現状がある。また、幼稚園も概ね4時間の教育であるといいながら、預かり保育を行うなど長時間になってきており、幼稚園か保育園か分からないというような状況が起きてきている。

教育内容にしても、幼稚園では幼稚園教育要領、保育園では保育所保育指針に基づき、場所は違っても、教育の中身というのは、同じような事を行っている。

また、小学校と、保育園・幼稚園のいわゆる就学前の教育の連続性、接続性というのが大事だということも、大きな教育課題になっている。

保育園や幼稚園で、元気に生き生きと自分を出して生活をしているが、小学校に入ったらシステムが少し変わって、1年生になって急に元気がなくなったとか、いろいろな子どもさんの状況もあるので、もっと小学校教育と幼稚園・保育園の教育がつながっていくようにしなければならないということである。

そこで、同じ地域の子どもたちが、一つの場所で、同じように生活をしながら、小学校へ上がるという方法も考えられるのではないかというのが、こども園である。

ただ、ご質問にもあるように「どうなるんだろうか」という不安が出てくるのも当然である。

しかし、子どもたちの健やかな育ちを願った時に、色んな教育課題があっても、一つずつ解決できると思っている。

教育の内容では、幼稚園が3歳児以上の教育については古い歴史があり、いろいろな実践もしてきている事例がある。保育園は、長時間の教育をしてきた場であるから、幼稚園にとっても参考にできることが多い。

幼・保の先生が、お互いに切磋琢磨して研修していくという事は、就学前の子どもの生活という意味で、プラスになっていく事も沢山あると思われる。

新しいものを創るという認識を持って、教育内容も含め、子どもたちの成長段階を踏まえて、こども園のあり方や内容を考えていきたいと思っている。

## 7 資料『南こども園創設に係るQ&A』に基づく説明

## 8 質疑応答

参加者：議論の大前提として、地域の保護者や地域の住民の意見はこども園に反映されるのか。国の基準で決まっているのか。

事務局：運営の内容で、駐車場の問題など開園までに検討できるものは検討させていただく。運営基準で、国が定めるものは遵守していく必要があると思っている。

参加者：具体的に、考えられるデメリットがあれば教えていただきたい。

吉岡教授：デメリットをどうとらえるかは難しいところだ。ただ、それぞれ家庭が違うように、同じ環境の中で、同じように育っているわけではないので、園では、早く帰るお子さんがあったり、お母さんがお勤めしていない家があるのも知りながら、お子さんとの関係を作っていくということなので、それがかわいそうとかデメリットではないと思っている。だから、今「デメリットは何ですか？」と問われた時に、これだという事は言えない。

参加者：今、0歳と3歳の子を預けているが、吉岡先生の説明の中で、子どもの育ちを保障する、十分な教育をされるという意味では、すごく賛同でき、楽しみだが、子どもは順応力がすごいので、どちらかというと、自分が適応できるかという所が不安である。  
保育園は子育て支援として、先生方は子どもを育てながらも、親も一緒に育ててくれているというか、仕事を持っている親の事も考えて、一緒に育ててもらっているといつも感謝している。参観日が多くなった時に、わが子の為にしていけない自分が辛い。

高橋園長：母親の働く姿を見て、子どもは育ってくれているのではないかと思う。これから、幼稚園や会長さんなど保護者の皆さんと行事の進め方を検討したい。

平田園長：幼稚園も子育て支援として、保護者と話し合う機会があり、子どもの悩みとか、色んな事を話し合っている。こども園になった時は、保育園と幼稚園が一緒になって相談に応じ、“大丈夫だ”と安心していただけるようにしたい。

吉岡教授：子育て支援は国の一つの方針が出ているから、保育所も幼稚園の先生も研修を積み、プロとして対応されていくと思う。  
どう参観日を組み立てられるかわからないが、例えば、今までの参観日のイメージと違う部分で、全国的に実践されている「毎日参観日」をしている園がある。「保護者が来たい時に、いつでも見に来てくださいよ」ということだ。「いつでもいいですよ、フリーで来られたらいいですよ」という形の取組、小学校もそうだし、保育園や幼稚園も出来ている。保護者も「良いものを作るのだ」という気持ちで意見を言いながら創り上げていくという姿勢が大事だと思う。

参加者：制服とか靴は、新規入園児しか新しくならないのか。

事務局：制服とか用品等は、来年度3歳児になるお子さんから、順にそろえていこうと思っている。開園の時までに、3年間の移行期間があるという形で考えていただければいい。

参加者：こども園になっても短時間利用児の管轄は文部科学省か。

事務局：今、内閣府が中心になって調整をしているが、これからまとまっていく。近いうちに基準が決まるはずである。

参加者：こども園の短時間利用というのは、何時間ぐらいの利用になるのか。

事務局：短時間利用児というのは幼稚園児に相当するので、今の幼稚園児の時間をイメージしていただいたらいいと思う。(弁当日で概ね午前9時から午後2時まで)

参加者：保育料が保育園児と幼稚園児によって、全く違う。幼稚園は一定化されているが、保育園は収入によって違う。保育料を統一しないのか。

事務局：保育料は、認定こども園になれば、基本的には応能負担といって所得に応じて今の保育園のような費用体系になるが、南こども園は認定をとらないので、短時間利用児については今の公立幼稚園と一緒に定額の保育料となる。長時間利用児は今の保育園と同じ料金体系を考えている。

参加者：入るときに短時間利用にしたら、長時間に変更出来ないということか。

事務局：例えば、短時間利用で入ったけれども、仕事に行くようになったから長時間利用に切り替えたいという事も当然あると思う。一定の基準を満たせば、そういう形も取らせていただきたいと考えている。

参加者：保育園児は、こども園になった時、送迎バスが利用できないのはなぜか。

事務局：幼稚園の通園バスの利用条件は、片道2キロ以上の子どもで、希望される方は一定額の負担をしていただいた上で利用していただいている。こども園になっても、短時間利用児については、同様に続けさせていただきたいと考えている。

参加者：長時間利用児でも、バスに間に合うようであれば、お金を払えば乗れるという事か。

事務局：幼稚園は午前9時に間に合うように通園バスを走らせている。帰りも、午後2時降園の送りをする。  
それ以外に、午後2時から午後4時までは1日300円で預かり保育を実施しているが、その時には送迎バスは出ないので、保護者が迎えに来ていただく。  
保育園は、来られる時間もさまざま、お布団などの荷物もあり、その辺りの扱いが元々違うと思う。

事務局：みなみ保育園も昔は通園バスがあったが、保護者の方の就労の時間帯や形態が変わってきて利用者が無くなった。朝早くから夕方まで、子どもさんをお預かりする中では、その通園バスの時間帯では利用しにくいということで廃止になった。

参加者：定員について、300名のうち長時間利用児と短時間利用児の割合はどれくらいと考えているのか。

事務局：今、保育園の定員は120名で、このまま維持していきたいと思っている。  
120名のうち、3歳以上児が約60名いる。幼稚園児の180名と合わせて3歳以上児が240名と想定している。

参加者：幼稚園というのは希望者全員が入れる。保育園は就労の証明がある人しか入れないし、希望しても入れない方もいる。働く人のニーズがあって、定員を増やしていくという事は考えていないのか。幼稚園が優先という事か。

事務局：就労のお母さん方が増えているという事もあり、今後だんだん幼稚園の園児数が減っていくと思われる。これも今回、こども園にシフトした理由だと思う。今は確かに幼稚園の方が多

いかかもしれないが、徐々に保育園体制のこども園にシフトしていくのではないかとというのが、市の考え方である。

参加者：幼稚園の方で、例えば、短時間でパートに出てらっしゃる場合、幼稚園として入園して、幼稚園の費用を払いながら、プラス 300 円の預かり保育料で保育園のような利用の仕方ができる。保育園は、その何倍以上も払う事になると思うので、不公平感が出てくると思う。

事務局：3 歳児であれば、幼稚園の保育料が 7,000 円。4・5 歳児が 6,300 円である。そこに、給食を希望するなら別途費用がかかる。そういう違いがあるのと、預かり保育料が 1 日 300 円で月 20 日間利用したとして、月額 6,000 円かかる。保育園の場合は所得に応じた保育料が、3 歳児以上で最大 28,000 円程度、4・5 歳児であれば 24,000 円程度となる。

参加者：費用で 1 万円以上の差が出てしまう。利用形態を考えてみると、パートの人であれば、みんな短時間利用児に変わりたいと思うのではないかと。預かり保育を 6 時までお願いできないのか。

事務局：幼稚園の預かり保育は午後 4 時までである。4 時まででいける方であれば、そういうシフトも可能かと思う。

ただ、幼稚園では、水曜日は預かり保育をやっていない。

幼稚園に預けて働く事を想定されるのなら、午前 9 時～午後 2 時の中で働かれて、且つ、土曜日は保育がない。

なお、月、火、木、金曜日の午後 2 時から午後 4 時までが、1 回 300 円の預かり保育が出来るという制度である。夏休みも保育がない。

通園バスを使っても、朝は良いが、預かり保育を利用するなら、帰りは迎えに来ていただかなくてはならない。

給食はないから、弁当とおやつの持参も必要である。

養護と教育という観点から、区別している。

こども園になって、幼稚園型で働き方を考える場合、Q&A で紹介したように、今の幼稚園よりも柔軟である。

こども園の幼稚園型における費用としては、基本保育料が 3 歳児 7,000 円、4・5 歳児は 6,300 円。預かり保育を月 20 日間使うと 1 か月 6,000 円。

通園バスは 1 か月 3,000 円。保護者の自家用車送迎は認めていない。給食を利用するなら、例えば 1 食 300 円と仮定して 20 日分必要であれば 6,000 円かかる。これに、学用品費や諸積立など加算すると 2～3 万円になる。

預かり方も、保育園だったら午前 7 時から午後 7 時までとかになるので、これらを考慮されればよい。

参加者：幼稚園の子どもが、南こども園に集中しないか。

事務局：どれくらい集まるかわからないが、保育園の枠も大事であり、今の定数内で一定の選出方法も考えていかなければならないと考えている。

参加者：生駒幼稚園も長時間預かりが始まったので入園を予定していたが、結局、みなみ保育園でお世話になった。こども園に、南幼稚園区以外のよその幼稚園から集中することにはならないか。

事務局：そこは決定的に違い、生駒幼稚園の長時間預かり保育は生駒市内全域から預かるが、南こども園の場合は、南幼稚園区からしか短時間利用児を預からない。保育園は、これまで通りである。

参加者：では、南幼稚園の通園区域に住んでいる人だけが、得するということか。

事務局：得するというよりは、新たなこども園としてシステムが変わると考えている。

参加者：1歳児で子どもを預けている。親の立場として、隣の子がお弁当を食べているのを見た子どもが、隣の子のように“お弁当を作ってほしい”と言われたら辛い。

事務局：他市の状況として、最初はお弁当グループと給食のグループにしたそうだが、1か月も経たないうちに、お弁当が違ふ、給食が違ふというよりも、友達同士“この友達と食べたい”という形でスムーズに対応したと聞いている。お母さんが心配するよりは、子どもたちは順応性がある。  
保育園でも近年、アレルギーのお子さんがとても増えてきている。同じ給食を食べることができないお子さんも多い。その中で、違ふからどうのこうのというよりも、友達関係でつながっている。

吉岡教授：“僕もお弁当持っていきたい”と言え、持っていけばいい。子どもさんの声を聞きながら、先生と相談する。それこそ、子育て支援である。

事務局：他市の状況では、こども園の短時間利用児も、年長児になった時に小学校で給食になるので、夏を過ぎた頃からは、みんな給食に変わってきていると聞いている。

参加者：駐車場が遠くなると、抱っこで、布団を持って、傘を持って、自分はずぶ濡れで…という状況である。“駐車場は、今のままです”と言われると辛い。

事務局：駐車場の方は、今と同じになると思う。ただ、布団のレンタルの導入を検討している。

また、今は金曜日に布団を持って帰って、土・日曜日で干して、月曜日に持参しているが、土曜日に持ってきてもらってもよいのではと思う。

参加者：子どもは保育所を選んだり、こども園を選んだり、幼稚園を選んだりできない。子どもの命や健康や発達を守るのは、親である。親は子どもから視線を放してはいけない。

だから、こども園を“悪い”とか“反対する”とかいうのではなく、今の段階で、若いお母さんが、自分達も一生懸命に頑張るけれども、“こういう事をしてほしい”とか、“こういうものが良い”とかいう事を、どんどん良く考えて意見を出して欲しい。

それから、早めに交流しないとダメだと思う。

市の方には駐車場について用地買収をするとか、交通の事を考えてほしい。

## 9 閉会あいさつ（池田部長）